

## ☆環境の国際比較授業案

林 美恵子

- 1 時間:60分授業
- 2 学習対象:小学生4年生以上
- 3 目標:ゴミ事情をめぐる状況を国際比較することを通して、子供たちに“THINK GLOBALLY ACT LOCALLY“(国際的な視点で考え、足元から行動する)という考え方を感じ取ってもらう。
- 4 時間配分:

あいさつ、講師紹介	2分
子供を加味した米、独、韓、日の文化的背景	15分
4カ国の生ゴミ、ゴミ事情	25分
質問タイム	10分
まとめと振り返り	8分
- 5 授業展開:
  - ① 机に並べた人形、おもちゃや絵本などとパワーポイントで投影した写真により、日本、韓国、アメリカ、ドイツをクイズ形式で確認し、その文化的背景にも触れていきます。
  - ②生ゴミ等、実際のゴミを使いながら、それぞれの国の生ゴミの処理方法、分別回収の仕方、リサイクル事情等を紹介します。

例えば、生ゴミは川口市では可燃物扱いなのに対し、韓国、ドイツでは堆肥化、飼料化やバイオマス発電化しており、アメリカでは、生ゴミがフード・ディスポーザー(家庭用生ゴミ粉碎機)で粉碎され、合流式の下水道にそのまま流されていること。日韓が半透明の袋回収だが、アメリカ、ドイツではゴミ・コンテナ回収であること。そんな話の中で、韓国の屋台の残飯が養豚のえさに回されるが、お客さんの爪楊枝が芋のでんぷん質で作られ、豚を傷つけないように工夫されていること、川口市が15種類の分別だが、ドイツでは300種類(委託された専門業者が分別)になっており、アメリカではシステムとして分別収集していてもあまり守られていないことなどにも触れます。

ドイツのゴミ・コンテナ、アメリカのフード・ディスポーザーの写真のパワーポイントコンテンツで見せます。
  - ③狭い国土でゴミの埋立地がなくなりつつある日本、韓国、ドイツがゴミ問題に真剣であることに比べて、アメリカがいまだ大量生産、大量消費体質から脱却しきれていないようすを感じとってもらいます。
  - ④まとめとして、「もったいない」という言葉が再評価されているが、それ以上に、日本をはじめ先進国ではゴミ埋立地がなくなるというシビアな状況になっており、みんなで身近なところから少しでもやれることをやっていきましょうと締めくくります。
- 6 備考:主に、韓国はソウル市、釜山市、ドイツはフライブルク市、カールスルー市、アメリカはニューヨーク市をケーススタディとして紹介。
- 7 準備するもの:

講師:パワーポイントコンテンツ(各国の写真資料)、おもちゃ、人形、絵本、各種ゴミ  
学校:PC、スクリーン、ホワイトボード、マグネット、マーカー、世界地図、長机